

生態系と生物多様性の経済学

(TEEB : The Economics of Ecosystems and Biodiversity)

平成19年3月 G8環境大臣会合 (ドイツ・ポツダム)

- 「ポツダム・イニシアティブー生物多様性2010」が支持され、生物多様性の地球規模の損失に関する経済的評価の重要性が指摘される。



ドイツ政府がドイツ銀行のスクデフ氏を中心に研究を開始

平成20年5月 生物多様性条約COP9 (ドイツ・ボン)

- 閣僚級会合でスクデフ氏よりTEEBの中間報告が発表される。
(TEEBは2つのフェーズで構成。中間報告は第1フェーズの要約。)

中間報告の概要

- 生態系サービスの直接の受益者の多くは貧困層であり、生物多様性の損失と貧困は不可分に関連。
- 損失率4%(仮定)では、50年後(孫の世代)に引き継ぐサービスが1/7になり、倫理的問題。
- 森林の破壊による経済的損失が、2050年には年間220~500兆円に及ぶ可能性がある。

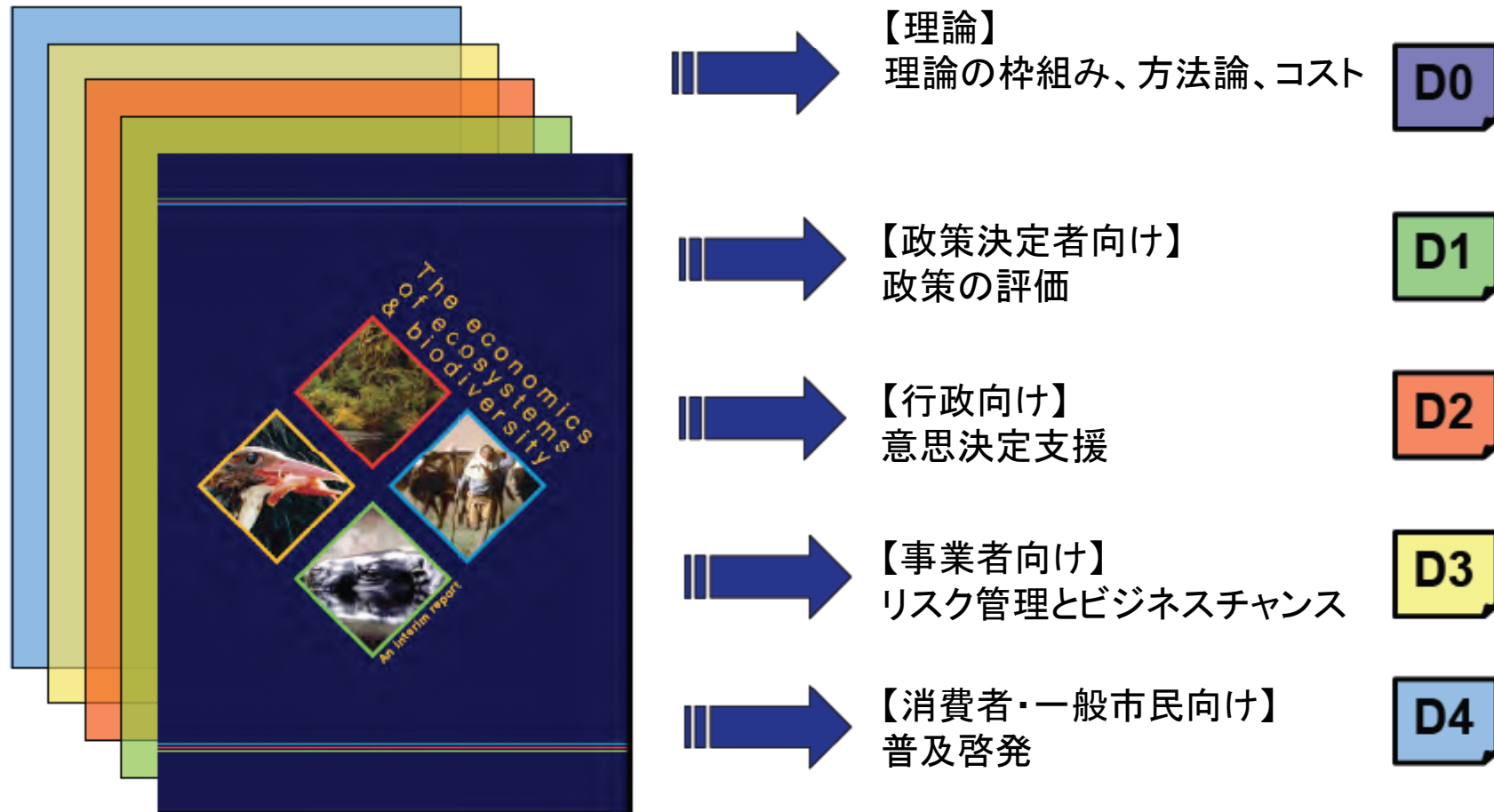


今後、第2フェーズをとりまとめ (日本も一部協力)

平成22年10月 生物多様性条約COP10 (名古屋)

- 最終報告書が公表される予定。
経済が生物多様性施策において強力な道具であることや、生物多様性の価値が広く理解されることにより、政策が改善され得ることを証明する方針。

TEEB 第2フェーズの構成



◆ 第2フェーズの目標: 第1フェーズを発展させ以下の目標を達成する。

- ・「科学と経済学の枠組み」を強化すること。
- ・「推奨される経済評価手法」を確認すること。
- ・「何も対策を行わない」場合のシナリオと代替シナリオを比較し便益と費用を調査すること。
- ・政策改革と総合的な影響評価をサポートする「政策ツールキット」を開発すること。
- ・主要な「エンドユーザ」と初期段階から関わること。